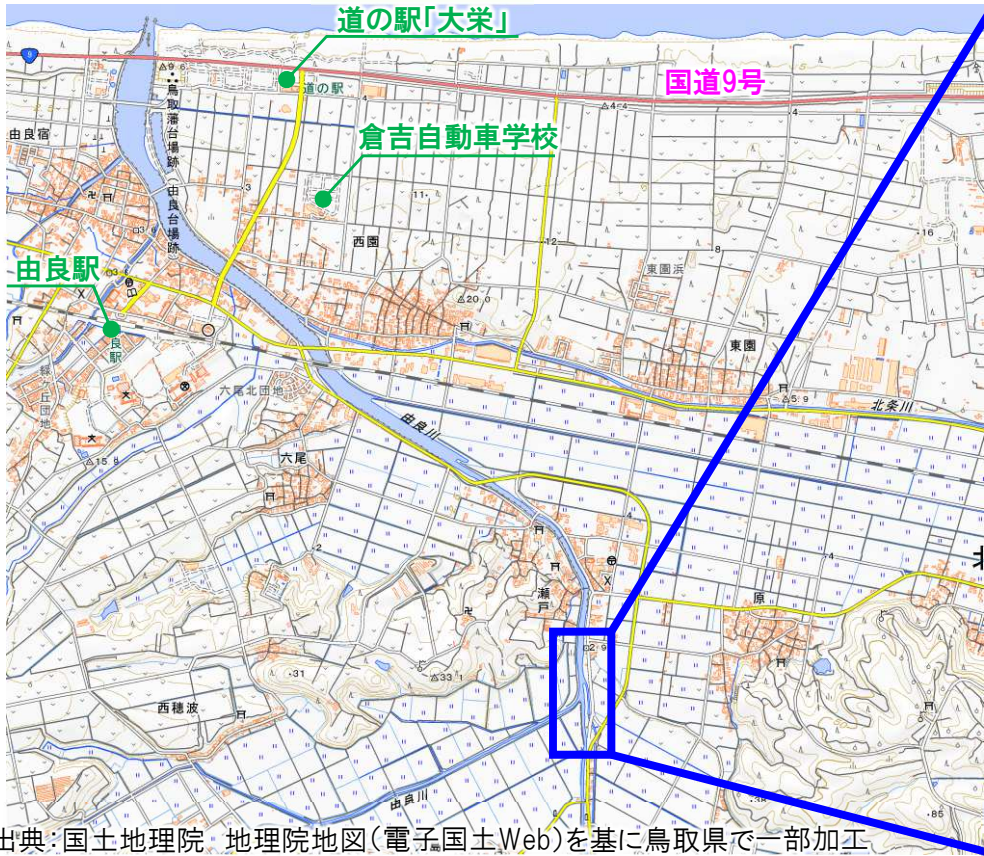


# 位置図

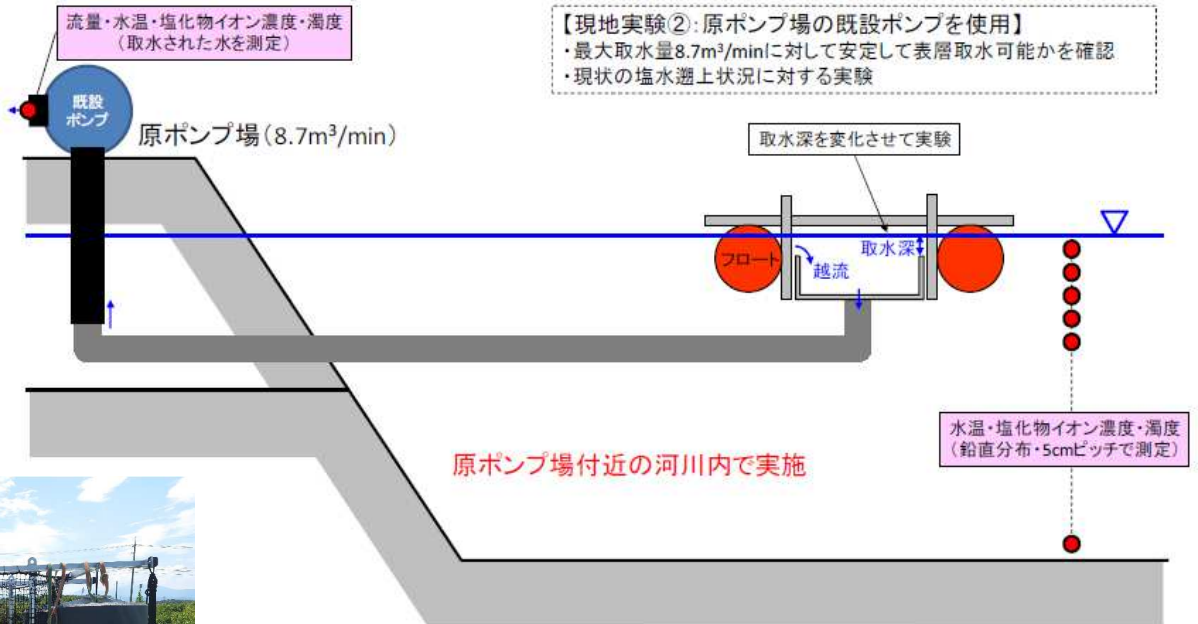


出典：国土地理院 地理院地図(電子国土Web)を基に鳥取県で一部加工

出典：とっとりWebマップ

## 実証実験の概要

### イメージ図



【現地実験②：原ポンプ場の既設ポンプを使用】  
 ・最大取水量8.7m³/minに対して安定して表層取水可能かを確認  
 ・現状の塩水遡上状況に対する実験



8月の実証実験の様子

由良川沿川の農地では、灌漑用水が乏しく河川からポンプで揚水して農業に用いています。しかし、取水期間の5月～9月は潮位が高く、海水が遡上しやすくなり、河川底層部の塩分濃度が高くなるため、塩害が心配されています。

鳥取県では、塩水遡上のメカニズムを数値解析モデルにより再現し、河川改修と海面上昇が要因であることを定量的に明らかにしました。また、塩水遡上対策として、河川表層部の淡水を灌漑用水として取水することが有効と判断し、表層取水装置を開発・製作しました。

表層取水装置は、河川の水位変化に追従するようフロートで浮かせる構造としており、装置を既存の揚水ポンプ施設の呑口部と連結して、その効果と実用性を確認する現地実証実験を行っています。